

2014年10月14日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

MVNO/SIM フリースマートフォン市場規模は5年後に15倍以上に達する見通し

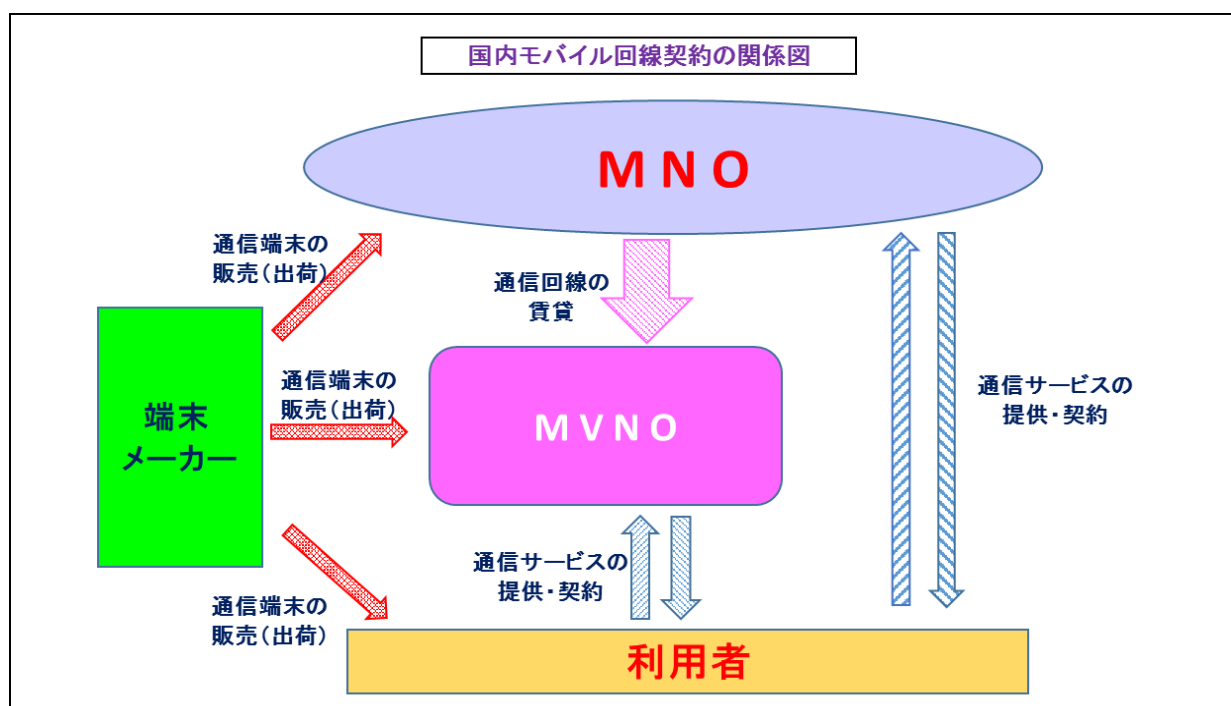
～MVNO 契約回線数も5年後には4倍以上の規模になると見込まれる～

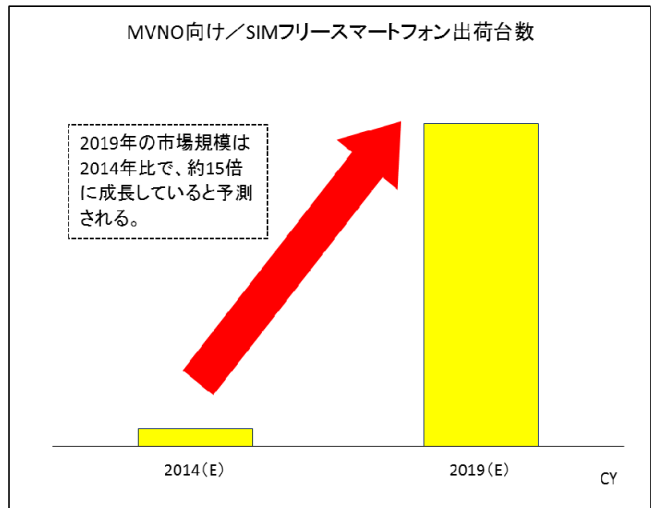
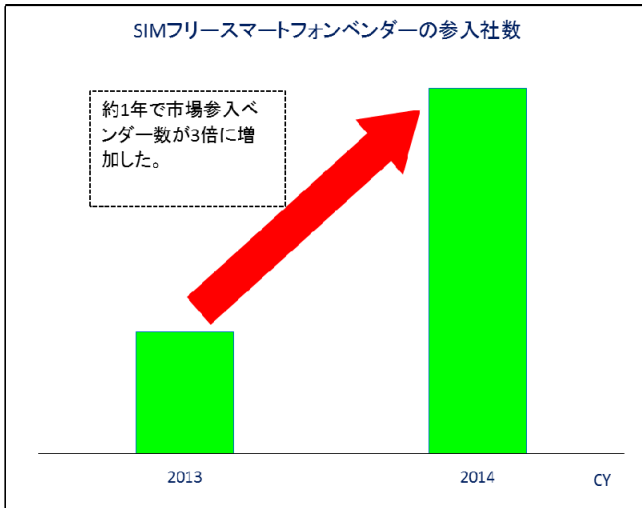
株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内におけるMVNO及びMVNO向けSIMフリースマートフォンの市場動向に関する調査報告書『国内MVNO/SIMフリースマートフォン市場調査 ～新たな成長市場の可能～』を9月末に発刊しました。

国内の携帯電話市場は、MNO (Mobile Network Operator) と呼ばれる移動体通信事業者のサービス利用者 (いわゆる加入者) 数が頭打ち状態になりつつあるのに対して、MNO から通信回線を借りて通信事業を行なう、MVNO (Mobile Virtual Network Operator) と呼ばれる仮想移動体通信事業者のサービス利用者が、ここ数年の間に増え始めてきた。

数年前まではMVNOによるサービスはデータ通信カードや、モバイルWiFiルーター向けのデータ通信サービスが中心であった。1～2年程前からスマートフォン向け通信サービスが増え始め、音声通話サービスも手掛けるMVNOが登場してきた。MNOによるサービスが高価であるという理由から、MVNOと契約をする利用者も増え始めており、今後MVNOが日本のモバイル市場において、新たな成長のけん引役になっていくと期待される。

実際に、MVNOサービスを提供する事業者はすでに百社を大きく上回っており、MVNOのサービス向けにSIMフリースマートフォンを提供するベンダーも、ここ1年で約3倍に増えている。

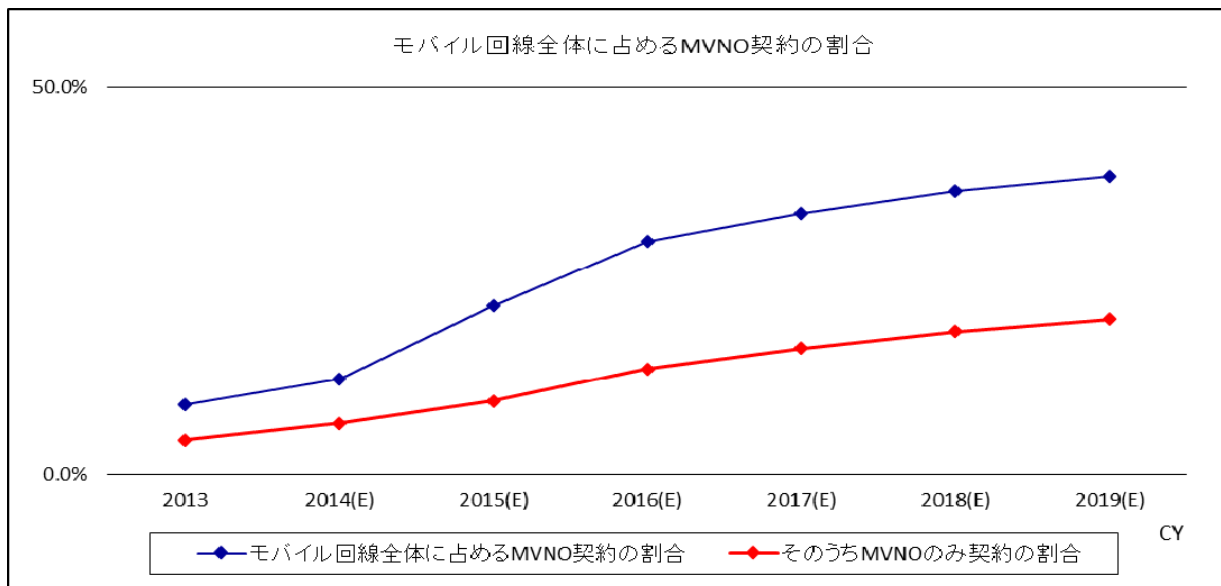




SIM フリースマートフォンの出荷台数も堅調に増え始めている。2013 年はごく僅かであったが、2014 年は数十万台規模となり、2019 年には2014 年比で15 倍以上に達するものと予測される。国内におけるスマートフォン市場全体ではMNO 向け出荷が減少する傾向にあるが、MVNO/SIM フリースマートフォンは対照的に増加傾向にあり、市場全体の成長を下支えするものと期待される。

ただし、この市場の成長予測には次の2つの要因が大きく求められる。1つは今後国内で出荷される携帯電話端末が基本的にSIMロック解除されること、次に法人市場においてMVNOサービスおよびSIMフリースマートフォンの利用が促進されることである。

一方、契約回線数も堅調に伸びていき5年後には現状の4倍以上になると見込まれ、モバイル市場全体におけるMVNO契約の割合も40%前後になると予測される。ただし、その多くはKDDIやSoftbankといったMNOによるMVNOサービス(WiMAX 2+など)が半分前後を占めると見られる。しかしながら、これらMNOによる契約を除いたMVNOのみ契約の回線数も、低価格を売りにして着実に伸びていくものと予測される。



【資料紹介】

『国内MVNO/SIMフリースマートフォン市場調査』は国内におけるMVNOとMVNO向けのSIMフリースマートフォン市場を調査対象とし、主に端末ベンダーの動向を中心として、主要ベンダーへのヒアリングを行ない、市場動向をまとめております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ 第3グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) TEL:03-3866-4505